

平成二十一年度

東京都市大学付属中学校

(第二回)

入学試験問題

国語  
六の一

(注意) 解答はすべて解答用紙に書きなさい。

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

持続可能性の考え方を世界に広めたのは、ノルウェーの元首相であるグロ・ハルレム・ブルントラント氏が主宰した「環境と開発に関する国連委員会」(通称、ブルントラント委員会)である。

ブルントラント委員会では、人類が生き「び」ていくためには「持続可能な開発」(サステイナブル・ディベロップメント)の考え方を普及させることが必要であると訴えた。このブルントラント委員会の答申は、一九八七年四月に「われら共通の未来」と題する報告書にまとめられた。この報告書はただちに日本語に翻訳され、『地球の未来を守るために』という題名で、同年七月に福武書店から出版されている。

持続可能な開発とは、この報告書では「将来の世代の<sup>※</sup>ニーズを満たす能力を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすような開発」と定義している。この定義は、異なる世代の間の不平等をなくすという意味で、「開発は、次世代の<sup>※</sup>特性を伴わないようにすべき」であることを国際社会に訴えたものである。

ブルントラント委員会の答申は、世界中に大きな反響を呼び、「持続可能な開発」という言葉が<sup>※</sup>人口に膾炙した。日本では、「開発」という言葉のもつ破壊的な響きを嫌って、これをあえて「持続可能な発展」と訳すべきという人も多い。

私は、「開発」という言葉自体を<sup>①</sup>要者にする必要はないと思っている。問題はむしろ開発の中身である。環境を破壊しない持続可能な「開発」こそが必要だと考えるべきと思う。

このことは、持続可能な開発がなぜ国際社会で受け入れられたのかということと深く関係している。もともと、一九七二年にストックホルムで開催された国連人間環境会議以降、<sup>②</sup>先進国と開発途上国では、環境の保全と開発に関する深刻な対立が続いている。

先進国は、開発の時代は終わった、これからは環境の保全だと考える。ところが、開発途上国は、先に発展した先進国が開発途上国に環境保全を押しつけるのはけしからんと考える。自分たちにも開発による発展を<sup>※</sup>享受する権利があると主張するのである。

「持続可能な開発」が広く受け入れられたのは、この言葉が先進国と開発途上国で異なる<sup>③</sup>解釈を可能とし、南北間の「<sup>※</sup>同床異夢」を許したからである。先進国では、従来の開発を否定した持続可能性の達成に重点が置かれる。一方、開発途上国では、開発の必要性が認められ、要は開発のあり方を変えればよいのだと理解するのである。

一九九二年にリオデジャネイロで開催された「環境と開発に関する国連会議」(地球サミット)では、持続可能な開発が最も重要な概念として取り上げられた。会議の名称に「環境と開発」が使われていることに<sup>④</sup>象徴されるように、環境と開発は相互に矛盾した概念ではなく、むしろ両者は調和すべき概念とされているのである。

持続可能な開発は、したがって先進国と開発途上国が、互いに納得できる大変便利な言葉であった。それゆえに、南北が<sup>⑤</sup>一帯に( )する国連の場で、この言葉が提案され、その後の地球環境に関わる国際的な取り組みの場で頻りに使われはじめたのである。

このように持続可能な開発が、<sup>⑥</sup>南北の同床異夢を許す政治的な言葉であったことは問題である。国際社会では広く使われても、学術の世界ではどう扱ってよいのかわからないという状態が続いた。<sup>⑦</sup>抽象的には理解できても、現実の問題解決への<sup>⑧</sup>ミチスシが見えてこないのである。

この問題に真っ向から取り組んで画期的な成果をおさめたのが、国連教育科学文化機関(UNESCO、ユネスコ)と国際科学会議(ICSD)が主催して、一九九九年七月ハンガリーの首都ブダペストで開催された世界科学会議(ブダペスト会議)であった。この会議がとりまとめた「科学と科学的知識に関する世界宣言」では、二〇世紀までの科学が人間社会に経済的な恵みをもたらす一方で、環境問題など新たに解決すべき負の側面をもたらしたことをふまえ、二一世紀の科学は現在と未来の世代にとって持続可能で健全な環境を提供することに貢献すべきと訴えた。

ICSDI会長として、世界宣言をとりまとめ、このブダペスト会議を歴史的な意義のあるものにするに成功した吉川弘之先生は、これまでの人類を発展に導いた「開発性科学」にかえて、これからは、人類の持続的な存続を目指す「持続性科学」(サステイナビリティ・サイエンス)を発展させる必要があると強調している。これは、地球持続性の必要性を、明確に世界に訴えたものと言える。

(中略)

平成二十一年度

東京都市大学付属中学校

(第二回)

入学試験問題

国語  
六の二

(注意) 解答はすべて解答用紙に書きなさい。

地球持続学は二〇世紀の後半を生きた私のような世代の学問と言うよりも、これから成人となり、二一世紀の半ばまで活躍しているであろう、きみたちが学ぶべき学問である。

私たちは二〇世紀の成長の時代を<sup>※</sup>謳<sup>うた</sup>い、二一世紀に地球持続性が<sup>○</sup>キキを迎えた時代を生きている。その原因は私やその前の世代が成し遂げた高度経済成長にある。<sup>①</sup>その時代のライフスタイルを反省しつつ、これからの時代の生き方を考えているのである。それが私たちに<sup>○</sup>とての地球持続学である。

しかし地球持続学は、これからの時代を生きるきみたちにとっては、まったく異なる意味をもつ。それは将来世代ではなく、自分たちの世代の生存に関わる大問題だからである。言い換えると、地球持続性が二一世紀に表現できるかどうかの<sup>○</sup>鍵は、きみたちの世代の生き方にかかっている<sup>②</sup>と言つても( )言ではない。

もちろん、科学技術や社会システムにこれまでとは根本的に異なる大変革が必要なのは言うまでもない。二〇五〇年までに二酸化炭素を七〇%以上も削減<sup>○</sup>するとすると、人々の生活を支えるエネルギーの大半が再生可能エネルギーとなること、またエネルギーの大幅な<sup>○</sup>需要削減が必要不可欠である。

社会は大量生産・大量消費・大量廃棄からすでに人間が掘り起こした天然資源から生まれた廃棄物を循環資源として繰り返し利用し、環境に対して負の影響を与えない仕組みにしなければならない。産業もまた、そのような生産過程と再資源化過程を一体的に組み合わせた、<sup>○</sup>ゼロエミッション型に改変する必要がある。

<sup>③</sup>運きに( )することのないよう、こうした革新的な科学技術や社会システムをいち早く社会に<sup>○</sup>普及させるには、地球持続学を学ぼうとする若者がいまよりもはるかに増える必要がある。私は、そうした若者が増えることを信じている。そうした若者には地球・社会・人間システムが持続するという未来を信じて、この問題に取り組んでほしいと思う。

もちろん、地球持続学以外の分野に進んでもらつても一向に<sup>○</sup>かまわぬ。人文科学、社会科学、自然科学、いずれの分野に進もうとも、地球と人類の一員である以上、二一世紀の持続可能性の問題から逃れることは難しいであろう。<sup>④</sup>そのとき、それぞれの立場で、地球持続学の問題提起に思いを馳せてもらいたいと思う。

<sup>○</sup>グローバル化がますます進むなかで、富める国と貧しい国の格差が広がっていく。その格差の<sup>○</sup>是正のために、富める国に住む私たちが貧しい国を支援する必要がある。しかし、それは私たちのライフスタイルに近づけようとするのではない。

それぞれの国には、それぞれの自然と文化を尊重し、豊かな生き方があるはずである。所得が向上するだけでは豊かとはいえない。いかに地域の自然や文化の多様性が生かされ、人々が生きがいと<sup>○</sup>誇りをもつて、<sup>○</sup>くらしにいけるかが重要である。

きみたちが国際的に活躍するときには、世界の国々の自然や文化の多様性を尊重し、互いに尊敬しあひながらつきあえる関係づくりに努めてもらいたい。その上で地球公共性の実現に向けて、さまざまに努力をしてもらえればありがたい。

二一世紀半ばは、地球持続性が確保され、人類が二一世紀以降も<sup>○</sup>存続できるかどうかの<sup>○</sup>岐路に立つ時期と言われる。<sup>⑤</sup>二〇五〇年をおそらく生きて迎えるきみたちの世代こそ、この問題を解決する地球持続学を<sup>○</sup>担つていく主役になるべきである。

(武内和彦『地球持続学のすすめ』より)

※ニーズ：必要・要求

※人口に膨らする：広く世間に知れ渡り、受け入れられること。

※享受する：受け取つて自分のものにする。

※同床異夢：表面的には同じ立場にありながら、それぞれの考えや望みは異なっていること。

※謳歌する：声をそろえてほめたたえること。自分のいる立場や環境を十分楽しむこと。

※ライフスタイル：人生についての考え方や価値観などを含めた、その人の生き方・生活のあり方。

※ゼロエミッション：産業廃棄物を限りなくゼロに近づけること。

※グローバル化：世界的・地球規模にすること。

平成二十一年度

東京都市大学付属中学校

(第二回)

入学試験問題

国語  
六の三

(注意) 解答はすべて解答用紙に書きなさい。

問一 — 線 a く e のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 — 線①「異なる世代の間」とはどのような世代の間を指しますか。本文中から十字以内でぬき出しなさい。(句読点等をふくむ)

問三 — 線②「悪者にする」という表現は、「開発」が持つどのような要素をたとえたものですか。本文中から漢字一字の語をぬき出しなさい。

問四 — 線③「先進国と開発途上国では、環境の保全と開発に関する深刻な対立が続いている」とありますが、対立が起きる根本的な原因は何ですか。本文の中略の後から十五字以内でぬき出しなさい。(句読点等をふくむ)

問五 — 線④「一堂に( )する」、線⑤「と言っても( )言ではない」、線⑥「選ぎに( )する」は慣用的表現です。空らんにあてはまる漢字をそれぞれ一字ずつ答えなさい。

問六 — 線⑦「南北の同床異夢」は、ここでは何についての、どのようなちがいを表していますか。南と北をそれぞれはつきりさせたいえ、八十字以内でまとめなさい。

問七 — 線⑧「抽象的には理解できて」とありますが、どのように理解するのですか。最もふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 持続可能な開発は世代間の不平等をなくしていく。
- イ 持続可能性はノルウェーから広まった考え方である。
- ウ 環境保全と開発は対立することなく進めた方がよい。
- エ 環境を壊すような開発は一切やめた方がよい。
- オ 地球の持続は現在の大人の責任にかかっている。

問八 — 線⑨「その時代のライフスタイル」とは具体的にはどのようなものですか。本文中から十五字以内でぬき出しなさい。(句読点等をふくむ)

問九 — 線⑩「そのとき」とはどのようなときですか。本文中の語句を用い、二十字以内で答えなさい。(句読点等をふくむ)

問十 — 線⑪「二〇五〇年をおそらく生きて迎えるきみたちの世代こそ、この問題を解決する地球持続学を担っていく主役になるべきである」のはなぜですか。その理由として最もふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 若い世代の人たちが、環境を壊してきた今の大人に今後の地球を任せるわけにはいかないから。
- イ 若い世代の人たちが地球持続性を確保しないと、自分たちの将来の生存があやうくなるから。
- ウ 今の若い世代の人たちには、国際的に活躍できる能力を持っている人がたくさんいるから。
- エ これから成人する若い世代の人たちには、地球持続性を考える時間がたっぷりあるから。
- オ 若い世代の人たちほど、資源を再利用してエネルギーに変えることに慣れているから。

問十一 本文中には、原文では正しく書いてあったものを、わざと誤ったかなづかいに書きかえた言葉があります。本文の中略の後からその言葉を五字以内でぬき出し、正しく書き直しなさい。

問題は【二】に続きます。

平成二十一年度

東京都市大学付属中学校

(第二回)

国語  
六の四

入学試験問題

(注意) 解答はすべて解答用紙に書きなさい。

【二】次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。

地殻<sup>ちかく</sup>から湧<sup>わ</sup>き出る水が

砂を持ち上げては崩<sup>くず</sup>している それは

① 水の歎<sup>なげ</sup>びである

泉にはところどころに紫<sup>むらさ</sup>色の領域<sup>りやういき</sup>があるが

水草 砂 光のいずれか あるいは

② それらが水とたわむれている効果のためか

見だめられない

船頭<sup>せんとう</sup>が乗れと合図<sup>ごうず</sup>をしたので

小舟<sup>せうしゅう</sup>に跳<sup>と</sup>び乗った

③ 水に張りついていた大枝<sup>おほえだ</sup>の影<sup>かげ</sup>が

揺<sup>ゆ</sup>れて壊<sup>こわ</sup>れた

④ いま出現<sup>しゆげん</sup>したばかりの

大切なもの

よこれていないものを

⑤ わたしは遠<sup>とほ</sup>いままなざしと<sup>と</sup>なって見ていた

この水が勢<sup>いきほ</sup>いと純度<sup>じゆんど</sup>を失<sup>う</sup>わずに

湖<sup>うみ</sup>にそそぎ その底<sup>そこ</sup>を

⑥ 一<sup>ひと</sup>本の川<sup>がわ</sup>となつて流れ

一本<sup>ひと</sup>の川<sup>がわ</sup>となり

海<sup>うみ</sup>へと至<sup>いた</sup>る

川<sup>がわ</sup>のことは聞<sup>き</sup>きたい

皆<sup>みな</sup>むこと 滅<sup>め</sup>びることについて

それは何を語るか――

(高橋順子 詩集『川から来た人』より)

問一 ――線①「水の歎びである」について、次の問いに答えなさい。

- (1) この部分には詩の表現技法が使われています。その表現技法を何というか、ひらがなで答えなさい。
- (2) その表現技法と同じ用法が使われている一行を詩の中からぬき出しなさい。

問二 ――線②「それら」とは何を指していますか。詩の中の言葉をぬき出しなさい。

問三 ――線③「水に張りついていた大枝の影」とありますが、どのような情景ですか。最もふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 鏡のような波一つない水面に大枝がうつっている様子。
- イ 鏡のような波一つない水面に大枝がしずんでいる様子。
- ウ 鏡のような波一つない水面に大枝がつかっている様子。
- エ 鏡のような波一つない水面に大枝がうかんでいる様子。

入学試験問題

(注意) 解答はすべて解答用紙に書きなさい。

問四 — 線④「いま出現したばかりの／大切なもの／よ／これしていないもの」とは何ですか。詩中の言葉を十字以内でぬき出しなさい。

問五 — 線⑤「わたしは遠いまなましとなつて見ていた」とありますが、このときのわたしの気持ちにはどのようなものだと考えられますか。最もふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 川に対するあこがれ
- イ 川に対する愛情
- ウ 川に対するあわれみ
- エ 川に対する絶望

問六 — 線⑥「一条の川」とありますが、どのような流れの川ですか。「流れの川」につながるようになさい。

問七 この詩の題名として最もふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 水源 イ 大河 ウ 川下り エ みずうみ

問八 (1) この詩はもともと二つのまとまりに分けられています。このようなまとまりを何といいますか、漢字一字で答えなさい。

(2) その後半はどこからですか。最初の五文字をぬき出しなさい。

【三】 次の①～⑩の文にある、二つの—線部分を漢字に直して組み合わせると、別の漢字が一つ完成します。例にならつて、完成した漢字と、後の□の中の漢字とを組み合わせ、熟語を作りなさい。

例 ハオリを着ていた老人が、いきなりキリツして発言した。

羽織 + 起立 ↓ 翌 (答え) 翌朝

- ① タニマの村の議会で、議員のホケツ選挙が行われる。
- ② ダンロンの自由は、その国の自由を表すシヤグドである。
- ③ 美術館に展示されているオオザラの価値についてセツメイされた。
- ④ 化学のサインウをのばし、その分野のセンモツカになりたい。
- ⑤ 住民はみなイク同意に、その計画にアマンを表明した。
- ⑥ セイシ工場へと向かう道をアンナイする。
- ⑦ それは、私のシエツシンチの駅に着くスンゼンのことだった。
- ⑧ ジヨリエウ詩人が編んだ詩集のモクジに目を通す。
- ⑨ セキザイの輸入量が、年々ゲンシヨウしている。
- ⑩ イリヨウヒンの仕入れ量をセイゲンする。

朝(例) 安 収 食 図 通 店 同 放 容 利

入学試験問題

解答用紙

【三】	問一	a	b	c	d	e
-----	----	---	---	---	---	---

問二		問三	
----	--	----	--

問四	
----	--

問五	④	⑧	⑨
----	---	---	---

問六	
----	--

問七		問八	
----	--	----	--

問九	
----	--

問十		問十一	誤	↓	正
----	--	-----	---	---	---

【三】	問一	(1)	(2)
-----	----	-----	-----

問二		問三	
----	--	----	--

問四		問五	
----	--	----	--

問六		流れの川
----	--	------

問七		問八	(1)	(2)
----	--	----	-----	-----

【三】	①		②		③	
	④		⑤		⑥	
	⑦		⑧		⑨	
	⑩					

受験番号	
得点	